

認定NPO法人  
多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

# mingle

みんぐる

2015.8  
Vol.49

## Top News

- 2015年度 学齢超過の  
子どもたちをとりまく状況
- 新たなハードル



## 特集 たぶんか フリースクールの一日

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化VOICE 4

イチオシ&ボランティアの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね! 多文化共生センター東京のできごと 9



認定NPO法人

# 多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO®

## 私たちのビジョン

**私たちには、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。  
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。**

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

### 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### 少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

### 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

## 私たちのミッション

**外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。**

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

**外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、  
日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。**

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通じて、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各自の個性や能力を発揮できるようサポートします。

**国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。**

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

## 私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

### :たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受検を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

: 外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査  
: 研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー  
: メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

### :教育相談

:多言語による高校進学ガイダンス

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

### :子どもプロジェクト（学習支援）

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

### :親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

## 2015年度 学齢超過の子どもたちをとりまく状況

4月、荒川本校、新宿校計20名の生徒でスタートした2015年度「たぶんかフリースクール」も4ヶ月が過ぎました。各校とも子どもたちの数は増え、7月末在籍者数は、スタート時の2倍の40名を超え、日本語クラスはレベル別で荒川本校4クラス、新宿校3クラスの編成となっています。また、国籍も多様化しており、中国、フィリピン、ネパール、インド、タイ、コンゴ、ベトナム、コロンビア、ブラジル、ミャンマー、日本（韓国、中国、フィリピンルーツ）の11ヶ国の生徒が学んでいます。15歳～19歳までの子どもたちで、多言語・多国籍化が進んでいます。子どもたちの通学区域は広く、都内、埼玉県、千葉県に渡り、遠くは埼玉県の上尾市から通学してくる生徒もいます。子どもたちは、来年の4月の高校進学を目指して、日本語と共に数学、英語の学習を始めています。

## 新たなハードル 全日制学力検査は5教科での受験

今年の全日制志望の都立高校受験生からは、新たに大きなハードルがかわりました。学力検査実施の全日制高校では、受験課目が全て5教科（国語、数学、社会、理科、英語）となります。（但し、昼夜間定時制、定時制は5教科の中の3教科以上）今まで、日本語に十分習熟していない子どもたちは、1月の在京外国人枠か、2月の一般枠で、3教科の受験校を探して受験してきました。昨年度「たぶんかフリースクール」からの一般受験での進学者は、全員3教科での受験校を選び、進学していきました。子どもたちの多くは、母国で学んだ数学、英語の2教科の力で点を伸ばし、得点が難しい国語をカバーして合格しています。それが、習っていない日本史等がでる社会や学習言語が難しい理科が加わった5教科になると数学や英語で力を持っていても、カバーしきれません。高校の選択肢はますます狭まってしまいます。科目数を減じて、3科目での受験ができるような措置が最も必要です。

## 平成28年度東京都立高等学校入学者選抜検討委員会報告から

こうしたハンディの大きい中の受験に対し、都教育委員会は「平成28年度入学者選抜から、第一次募集・分割前期募集における学力検査が原則として5教科となることで、日本語に十分習熟していない外国籍の者については、全日制課程の高等学校への進学が困難になることが想定される。そのため、都立高等学校において、日本人と切磋琢磨し、積極的に学ぼうとする外国籍の者に対して何らかの特別措置を検討していくことが望ましい」ということで「一般的の学力検査における外国籍の者の受検についての措置」を7月23日に報告しています。

本人の生徒と切磋琢磨し、積極的に学ぼうとする外国籍の者が、日本語に十分習熟していない場合には何らかの特別措置を講じることは大切であると考えるが、公平性の観点から学力検査の教科数を減じることはせず、共通問題にひらがなのルビを振る措置に加えて辞書の持込を認めることとする。また、辞書の持込に伴う検査時間の延長については、他県での状況を踏まえ、各教科10分とする。なお、持ち込むことのできる辞書や取扱いについては、外国籍の者の辞書の使用の実態や他県の状況を踏まえて、慎重に検討する。

辞書の使用や10分の時間延長の措置で、日本語が不十分であるハンディがどの程度軽減されるのか、既に11カ国もの子どもたちがフリースクールでは勉強していますが、マイナーな言語の子どもたちはどうするのかなど検討すべき問題は多くあります。同時に、特別な支援や配慮を必要とする子どもにとっての公平性とは何かという問題をあらためて考えることが必要だと強く思います。（桜木）

# 特集 たぶんかフリースクールの一日

## 荒川校の1日

9:50	登校
10:00 - 10:50	1時間目 日本語
11:00 - 11:50	2時間目 日本語
11:50 - 12:50	ランチタイム
13:00 - 13:50	3時間目 日本語
14:00 - 14:50	4時間目 数学・英語
15:00 - 15:50	5時間目 数学・英語
15:50 ~	おそうじ

### ■ 荒川校

新しい生徒たちと新しい1年が始まりました。今年も中国からの生徒が大半で、フィリピン、韓国からの生徒もいます。初めの頃はお互いに「はじめまして…」感が強く、しばらくの間、休み時間の教室でさえも静かで「みんな Shy なのかな? ふふ!」なんて思ったのもつかの間で、気が付けばいつの間にか水を得た魚のごとく泳ぎだしました。(それもかなり自由に) 大きな不安と期待とそれぞれの事情を持って異なる文化の国に来ることになり、そして多文化に通い始め 3 か月余り。少しずつ日本語で自分自身を語ることができるようになり、小さな火山のよ

うに彼らはフツフツと活動期に入って来たようです。だんだんと心を開いてきてくれた証だと良い方に受け取り、そしてちょっと諦めつつ、共に学び、悩み成長していかなければと思います。(担任:藤井)



自分の国について発表

### ■ 日本語

会話クラスをのぞいてみましょう。6 月に日本に来たばかりの生徒達が声を張り上げて「図書館は何時までですか。」「夏休みは何をしますか。」と反復練習しています。挨拶から始まり自分のことや自分の考えを相手に伝える力を 2 カ月で身につけ、向上させます。最後の授業では「自分の町」をまとめて全生徒・先生の前で発表します。

午後の読解・文型クラスをのぞいてみましょう。日本語が初めての生徒たちがまず勉強するのは、「あいうえお」のひらがなです。3 週間弱でカタカナの学習も終了し、読解と文法の勉強が始まります。そして 3 カ月後には、小学低学年レベルの読解問題や漢字をはじめ入試に向けた準備をしますが、中学 3 年生のレベルは遙かに遠く、高校入試問題はさらに遠いです。が、長くて 10 カ月、短い生徒は 6 カ月で入試を迎えます。

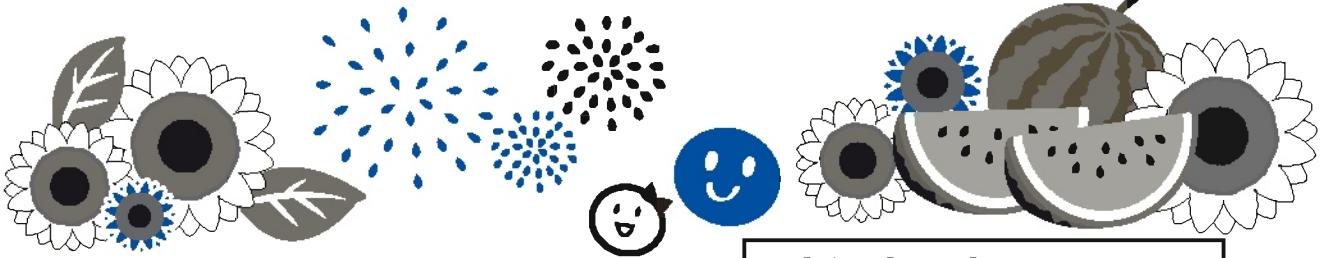
(日本語科: 須山・杉浦)

### ■ 数学

数学科の授業では、まずたくさんの計算問題に取り組みます。日本語がまだ身についていない生徒たちにとって、1.2.3・・・と十一×÷ の記号は見た瞬間にわかる文字。問題文なしに解ける計算問題は入試の時に大きな得点源となるのです。とはいえ、母国でのテストは電卓使用可だった! という生徒もあり、掛け算の九九や分数の約分といった小学校で習う基礎からもう一度勉強しなおすこともあります。できた! 思い出した! を繰り返し、ひとり通り計算を復習し終えた頃には日本語の力もついてきて、長い問題文の関数や立体図形、証明などにすすんでいきます。一つひとつゆっくりと、でも着実に力をつけていくことで、2 月の試験への自信を積み重ねていくことになるのです。(数学科: 小森)

### ■ ランチタイム

12:00~12:50はランチタイム! 1時間ほど休み時間があるので、お昼ごはんを食べた後で、生徒たちは思い思いに過ごしています。音楽が好きな生徒が多く、中には電子ピアノで好きな曲を弾いてくれる生徒がいたり、好きな曲を流して、大合唱が始まったりします。生徒たちも先生たちもほっと一息の昼休みです。(事務局: 千田)



## 新宿校の1日

### ■新宿校

今年度の4月は、中国、フィリピン、ミャンマー、コロンビアから来た生徒8人でスタートしました。

5月、6月はインド、ネパールから来た生徒、7月からコンゴ、ブラジルから来た生徒も加わり、現在では8か国17人になりました。

クラスは3つで、日本語1は文法学習経験者で日本語2や3はひらがなから学習しています。

日本語1クラスは、夜間中学校に在籍している生徒が多く、9時から13時まで勉強した後、5時から9時位まで夜間中学校で勉強しています。

日本語2や3は、共通語である日本語はまだ習得中ですが、今まで知らなかったお互いの国の生活や習慣を共有し合いながら、桜咲く春を迎えられたらと願っています。(担任: 加藤)

8:50 登校

9:00 - 9:50 1時間目 日本語

10:00 - 10:50 2時間目 日本語

11:10 - 12:00 3時間目 数学・英語

12:10 - 13:00 4時間目 数学・英語

13:00 - 13:30 ランチタイム

13:30 - 15:30 放課後の勉強の時間

(秋以降は11:00 ~ 15:00 のクラスもできます)

### ■日本語

4月にひらがなの勉強からはじめた日本語2クラス。出身はフィリピン、ネパール、コロンビア、非漢字圏出身の生徒ばかりのクラスです。授業の内容は「文法」「会話」「聴解」「漢字」とわかれていて、毎週月曜日には単語テストもあります。休み時間にはいつも遊びまわっている生徒たちですが、このテストの前の休み時間にはみんな外にもいかず単語プリントを見ながらぶつぶつ…。そして授業が始まりテスト!の前にちょっと違うプリントをしようとすると、「先生!ダメ!すぐテスト!」と生徒たちから猛抗議。しかたないのですぐテストをはじめると、生徒たちは一刻も早く書かないと耳からこぼれだすかのようにすごい勢いで解答用紙を埋めていき、終わると安堵のため息。その甲斐あってかテストは毎回ほぼ満点です。次の時間にテストを返して「よくできました」の後に、「木曜日は漢字テストですよ」と念をおすと、今度はみんなでくら~いため息。来日して受験までの間に数ヶ月しかない生徒たちですから、こちらも心を鬼にしてテストをふりまわして追いかけますが、心の中ではがんばっているみんなを褒めてあげたい気持ちでいっぱいです。(日本語科: 中野)

### ■英語

4月当初の英語の授業は、ある程度日本語がわかる生徒3人でスタート。すぐに5人に増えました。出身国も英語力も様々ですが、2時間続きの授業のうち1時間は敢えて同じ教材(英語の読み物に日本語の設問がついたもの)を使って、一斉授業(と言っても少人数ですが)をしました。高校入試の英語で高得点を取るためには問題の日本文に慣れることも必要、また、一斉授業ならではの程よい緊張感や生徒相互の刺激・発見等も大切にしたかったので。2時間目はそれぞれの英語力に合わせた個別学習。「先生、できました。」と次々、声がかかります。7月からは生徒が10人に増え、英語力を基準に2つのクラスに分かれて勉強しています。生徒たち、頑張ってますよ。(英語科: 徳田)

### ■放課後

新宿校では春・夏学期の授業は13時で終わるのですが、その後に自由参加の自習の時間を設けています。生徒たちは午前中の授業の宿題をやったり、漢字の練習帳をすすめたりと、先生たちの助けも得ながらそれぞれ勉強をしています。それに先立ってランチタイムがあるのですが、それがみんなの一番の楽しみです。食べ終わった後は男の子はみんなで集まってゲーム、女の子は音楽をかけてダンス。短い遊びの時間に思いっきり笑って、後はがんばってまた勉強です。(事務局: 中野)



放課後の勉強の様子

# 多文化 VOICE

そん いつじょ  
孫 逸舒 さん

12歳で来日。現在、多文化共生センター東京インターン。

1996年夏、私は中国の東北部の小さな町で小学校（当時は一クラス80～90人）を卒業し、留学生であった母と一緒に暮らすために父と日本に来た。成田空港で久しぶりに母に会い、自動販売機（お釣りも出る！）で買ってもらったアイスがとても美味しかったことを、いまだに覚えている。初めて「電車」に乗り、窓の外は高層ビルではなく、田園風景が広がっていることに驚いた。しかし中国で汽車に乗る時のように、野山をぶらつく牛や羊を探してみると、なぜか見つからなかった。

着いた先は千葉県市川市にある小さなアパート。6年間暮らした祖父母の家では想像できないような清潔さで、トイレにはアニメで見たようなピンクのマットレスまであった。夜は平仮名を5つ習うと家族で焼き肉を食べに行き、翌日は服を買い、さらに次の日は水族館に行った。まさにパラダイス！

ところが四日目、私は近所の公立小学校（ウサギと鶏が飼ってある！）に連れて行かれ、スリッパを履いた足をそろえ、校長室の柔らかいソファーに背筋を伸ばして座るはめになった。ここで6年生をやり直すことになったのだ。ああ、嫌だ！平仮名はまだ4行ぐらいしか分からぬ。それにいじめられたらどうしよう！

ところが、次の日に教室に入ると、いきなりスター気分を味わった。びっくりするほど自由な雰囲気の、生徒数20人あまりのクラスで、私は生徒達に囲まれ、皆が漢字を書いて筆談したり（今思えば筆談は2割通じ、半分は分からず、残り3割は勘違いしていた）、ノートや鉛筆をプレゼントしてくれたりした。給食、掃除、教室移動（どれも中国の小学校とは違う）は、すべてみんながジェスチャーを交えて教えてくれた。こうして私はゴミを分別しなかったり、体育の時にロングスカートで走ったり、図工の時間に彫刻刀で指をぐさりと刺して血だらけになったり、運動会の障害物走で大勢が見る中コースに立ち尽くしたり、初めて見るリコーダーを家で猛練習してアパートの下

の階の住人に怒鳴られたり、どうせ先生に分からないと思って中国語で自由気ままに書いた音楽の鑑賞文を音楽の先生にものすごく褒められたり（保護者会の時に母親が先生の要望に答えて訳した）しながら、約半年間の日本の小学生活を楽しんだ。

続く中学生活は一変して灰色になった。日本語はまだ片言だけど、特別扱いは一切なし。部活で「上下関係」を叩きこまれ、クラスで嫌がらせにも遭った。本当の意味で女子のグループにも入れなかつた。そこで私は本の世界に逃げた。おかげで語彙が増え、日本語が上達し、成績も上がつた。

千葉県立八千代高校に推薦で入学した頃、私はすでに必要な日本語と「女子の世界のルール」を身に着けた。高校の成績は3年間学年1位で（おかげで学年の「スター」に返り咲いた）、親しい友人も何人もできた。2003年、私は一般入試でお茶の水女子大学に現役で合格した。

大学では学部・院を通して約10年間心理学を学んだ。大学2年の時に両親と日本で生まれた弟は帰国し、以来、私は学費免除・奨学金等に頼りながら自活をしてきた。塾講師、語学教師、店員、通訳・翻訳、フリーマーケットで手作りアクセサリー販売、最近ではセミナー講師など、さまざまな仕事をした。大学では心理学以外にも、社会学・文化人類学・哲学・美術史・音楽・フランス語などさまざまな学問の楽しさを知り、お金がある時は校外でアートセラピーや催眠療法などを習った。

今年5月から大学に雇用される形で、週4日多文化共生センター東京でインターンをすることになった。高校時代の恩師と再会したり、生徒と絵を描いたり、日々新たな学びとドラマを楽しんでいる。可愛くて生意気な生徒たち、そして先生方とスタッフを見ていると、かつて自分を温かく受け入れてくれた先生と友人たちの懐の広さに改めて気づかされる。国・文化を超える人間の創造性と奥深さを、アートで引き出し、本を出すのが、目下の目標だ。



## 「移民社会フランスで生きる子どもたち」

増田ユリヤ 著

さまざまな文化的背景をもつ人々がともに暮らすフランス。本書は、多様なルーツを持つ子どもたちの姿や彼ら・彼女らによりそう大人たちを、学校と福祉という二つの側面から描いている。

とりわけ移民が集住している地区にある教育最困難中学校での試みが印象的だ。学校でのさまざまな取り組みはもちろんのこと、地域の大人や民間組織が学校、先生、子どもたちを支えている。冒険活動やスポーツ活動を行う団体、保護者のサポートをする団体など、子どもたちの教育は地域の課題としてとらえ、精力的に活動を行っている。こうした地域をまきこんだ取り組みのおかげで子どもたちの問題行動は減り、学力もあがったという。

また、アフガニスタンや西アフリカなどからひとりでフランスにやってくる未成年亡命者という子どもたちがいる。民間団体がこうした子どもたちを路上で救い出し、全寮制の職業訓練センターに保護し自立までをサポートしている。その活動は行政から支援をうけて運営されており、いわば不法に入国したことのある子どもたちは最低限の生活が保障され、ひとしく教育をうける権利保障されるという考え方があるからなのだ。

しかし、フランスにも課題は山積みだ。移民の子どもたちの学力は、フランス語ネイティブの子どもたちよりもかなり低いと言われている。また、就職に関しても、移民の若者たちが安定した仕事を見つけていくことは非常に困難だという。前出の未成年亡命者は18歳を超えるといつ強制送還されてもおかしくない状況におかれてしまう。それでも、本書に登場する大人たちの多くは、移民の子どもたちをサポートすることは、「フランス人」としての誇りだととらえている。それは、フランスが多様な人を受け入れてきた歴史と精神があるからなのだろう。日本を振り返ってみれば、フランスのような歴史がなく、単純な比較は難しい。しかし、この日本にも多くの外国にルーツを持つ人々が暮らし子どもたちが地域の学校で学んでいる。少子高齢化や労働不足の問題が問われる中、ともに生きる住民として外国から人々を受け入れるのかどうか。その議論は避けておることはできないだろう。日本社会が今後フランスから学ぶことは多くあるはずである。（柴山）



岩波書店 1900円（税別）



私は今年1月から土曜日の「親子プロジェクト」「子どもプロジェクト」に参加しているボランティアの鮫島です。1月は大勢の生徒が高校受験の面接の練習で大変な熱気に包まれていました。私も早速模擬面接官になり参加しましたが、来日して間もない子どもたちの真剣なまなざし、どんどん上達する姿、自分の夢を身振り手振りで話す姿に、ワクワクドキドキ感激感動の連続でした。

例えば、突然異国の地に連れてこられ、テレビを観ても何もわからない、スーパーに行っても買い物の仕方がわからない、友達もひとりもいない、そのような状況から子どもは一步一步踏み出していく。 「たぶんかフリースクール」は、このような子どもたちの居場所であり、勉強の場であり、友だちとの交流の場です。人生のターニングポイントでの良い先生との出会い、一生の友だちとの出会い、色々な話を「たぶんかフリースクール」の卒業式で何人の子ども達が語ってくれました。

一步一步歩き出そうとしている子どもたちの成長のお手伝いができる、これはボランティアとしての喜びと幸せです。

# たぶんか フリースターの 毎日

# TABUNKA FREE SCHOOL



あらかわこう  
〈荒川校〉  
＜たぶんかフリースクール

あいづけん いぬやましりつこうとうちゅうがっこう ねんせい めい とう  
愛知県犬山市立城東中学校の3年生22名が当セ  
セイと  
ンターを訪れ、たぶんかフリースクールの生徒たち  
こうりゅうかく おこな こうりゅうかい にほんご  
と交流会を行いました。交流会は日本語レベルの異  
こと  
じ んご  
なる日本語1,2,3クラスの生徒たちを5グループに  
わ ちゅうくう くわ たが じこしょうか  
分け、そこに中学生が加わり、お互いに自己紹介や  
じほん まち がっこう しょうか  
自分の町、学校の紹介をしました。城東中学校のみ  
じゅうとうちゅうがっこう  
なさんは、写真等を使って、日本の文化や犬山市に  
しゃしんなど つか にほん あんか いぬやま  
ついて、また学校生活(行事・部活・給食等)のこ  
なつこうせいだつ きょうじ あかつ きゅうしょくなど  
せいと しょうかい  
とを生徒たちに紹介してくれました。フリースクー  
せいと じょぎょう こく ひだり まち しょうかい  
ルの生徒たちは、授業で作った「私の町」の紹介ボ  
ウル  
スターを使って、自分の町のおいしいものや、有名  
ばしょ まつ しょうか  
な場所、お祭りを紹介したり、自分の国のことばの

かんたん ちゅうがっせい おし  
簡単なあいさつを中学生のみなさんに教えたりしま  
した。

はじめは少し緊張気味だった生徒たちも、少しづつ打ち解け、グループみんなで協力しながら、知っている日本語を駆使してなんとか伝えようとしていました。日本語1クラスの生徒がリードをして、先週から日本語の勉強を始めたばかりの日本語3クラスの生徒に通訳をしたり、日本語でどういったらいか教えたり、「『さようなら』は中国語で『再見』です。みなさん、一緒に言ってください！」と盛り上げていました。お互いがお互いの国や町、学校を知るよい機会となりました。(千田)

<ハートフル>

ねん ど に ほん こ てき おう し ど う がつ  
2015 年度 ハートフル日本語適応指導は 5月から  
か い し あらかわく ない こう ちゅうが う こう が い  
開始されました。荒川区内 4校の中学校から計 12  
か い せ いと る かわしま き とういく あ つ  
名の生徒が三河島にある教育センターに集まって、  
か う よ び き ん よ び あ さ じ じ き い  
火曜日から金曜日、朝9時から12時まで、最大2  
だ い け つかん ふ う しつ し ど う う  
か月間の通室指導を受けます。

か月間の通室指導を受けます。  
せいと にほんご らいにち ま まったく  
生徒の日本語のレベルは、来日して間もなく全く  
にほんご べんりょう せいと にほんじん か  
日本語を勉強したことがない生徒から、日本人と変わ  
かいつ せいと さまざま  
わらないくらいの会話ができる生徒まで様々です。  
じょうし くき せい  
なので、教室をパーテーションで2つに区切り、生  
と ていいと カ ジム宮こう ちゅう  
徒もある程度のレベルに分けて授業しています。中  
がく ねんせい なんせい だんし めい ジョシ めい  
学1年生と2年生の男子8名、女子4名、みんなと  
けんせ まいにち  
ても元気でにぎやかな毎日でした。

がつ あらがわくしょうちゅうがっこうきょうかしょてんじ ともな げんさい  
6月には荒川区小中学校教科書展示に伴い、現在  
きょうしつ つか がくかく べうしつ し どう  
の教室が使えなくなり、約1か月間は別室での指導  
ひ へ ゃ な しじう じかん  
になりました。日によって部屋が変わり、指導時間  
へんじゆう しつない つくれ いす じゅんび るとめた  
を変更し、さらに室内の机、椅子の準備と後片づけ  
ほど せい と たち きょうのく きょうしつ か  
等、生徒達にも協力してもらいました。教室は変わっ  
せい と たち いつしょうけんめいへんきょう  
ても、生徒達は一貫で頑張りました。

朝の通室指導が終了後は夕方の補充指導を受ける  
ことができます。  
5月の指導開始時はひらがながやっと読める程度  
で自分から話そうとしなかった生徒が、最近では周  
りの生徒と笑顔で話しています。花火大会に行く約  
束もしていました。この夏も暑さに負けず頑張って  
いこうと思います。(丹吳)

## しんじゅくこう <たぶんかフリースクール新宿校>

がつ にち  
6月16日、セールスフォース・ドットコムさんの協  
きょうりょく しんじゅくこう けいと しゃいん いっしょ  
力で、新宿校の生徒が社員のみなさんと一緒にスパー  
こうりゅうかい おこな しんじゅくこう  
ツ交流会を行いました。新宿校はマンションのワンフ  
かだら うこ  
ロアなので体を動かすようができません。その  
にほん きま  
うえまだ日本に来て間もない子ども達は学校の外でス  
きかい  
ポートをする機会につながることは難しいです。その  
じょうきょう し  
状況を知ったセールスフォース・ドットコムさんが去  
きよねん  
年から子どもたちのために立派な体育館を借りてスボ  
ーク ていきょう  
ーツをする機会を提供してくださっています。

こんねんど しんじゅくこう おんな こ おお  
今年度の新宿校は女の子が多く、そのうちネパール  
しゅっしん おんな こ  
出身の女の子たちは母国の学校でもスポーツの経験が

あまりなかったようで、最初はとても不安がっていました。けれども社員ボランティアのみなさんのリードではじめてのドッヂボールに歓声をあげ、バドミントンでは勝利のガッツポーズ。  
おとこ こ なんにち まえ  
男の子たちは何日も前からバスケットボールをするのを楽しみにしていました。広い体育館を思いつきり駆け回り、見事にシュート！  
ひさ うんどう いちやあ よくじつ  
久しぶりの運動だったので一夜明けた翌日にはみんな「体が痛い～」と言いながら登校してきましたが、楽しかったスポーツ大会のことをたくさん話してくれました。（中野）

## しょくぎょうたいけんがくしゅう <職業体験学習>

とう 当センターでは、ギャップ財団より助成をいただき、たぶんかフリースクールでのキャリア教育プログラムを行っています。その一環として、7月10日(金)にOld Navy 吉祥寺路面店、イトーヨーカドー武蔵境店にて、職業体験学習を行いました。

ことうじ  
今年初めての校外活動で、「集合場所にはどうやつて行きますか？」と日本に来たばかりの生徒たちは職業体験が始まる前から、不安いっぱいの様子でしたが、当日は友だち同士で相談し、集合時間前にみんなしっかりと集まれました。最初こそ緊張していましたが、お店の方々の元気な挨拶に生徒たちも自然と笑顔になり、あつという間にうち解けていました。

みせ かたがた びんき あいさつ せいと せんしん  
職業体験では、商品を袋から取り出し、店頭に並べたり、ラベルシールを貼ったり、お客様へのお声掛けをしたり・・・。お店の方々に商品が店頭に並ぶまでの一通りを教えていただきました。

「次はどんなことをするのかな？」生徒たちはみんなわくわく、ドキドキ。生徒の中には来日したばかりで、日本語を話すことにまだ自信のない生徒もたくさんいましたが、お店の方々に励まされ、いつの間にか「こんなにはー！オールドネイビーへようこそー！」と自然に大きな声と笑顔が出てきました。普段は見られない真剣な顔、動きぶりを見てこちらもうれしくなりました。今回の体験を通して、生徒たちはたくさんのこと学んだようです。（千田）

## せいと さくほん <生徒の作文より>

しごと たいけん おとこ べつ ひと み  
「仕事の体験が終わっても、別の人を見たとき、『こんなにはー』と言いたくなりました。」

はじ しごと たいけん たの ひと み  
「初めて仕事の体験をしましたから、とても楽しかった。もし、行かなかったら仕事のことについて何もわかりません。」

みせ うつく うつく  
「お店はおもしろくて、美しくて、きれいです。わたしのきものはしあわせでした。ありがとうございました。」





A A A A

親子日本語教室の子どもクラスでは、学習の最後20分は1つの教室に集まりみんなで学習します。先月から、みんなで学習の時間に歌をうことにしました。初めてのことと、準備段階から右往左往です。まず、何を歌うか、ボランティアの中でも意見がまとまりません。そこで、ボランティアで選んだ曲とどちらが希望した曲を、みんなで聞いたり、口ずさんだりしてみました。今、日本語を学んでいる子どもに、日本の歌を選べ、とは無茶な要求でしたが何とかかんとか選曲しました。選んだのは「君をのせて」と「涙そうそう」。「君をのせて」はアニメで歌われている歌です。日本のアニメを見ている子どもは多く、この歌

のメロディーを知っている子が何人かいきました。そこでまず「君をのせて」でスタートしました。いざ始めてみると、こどもたちの声が聞こえません、こどもたちを見てみると、つぶやくように歌っている子、黙つて聞いている子、他に興味を示す子など様々でした。しかし学習が終わる頃、こどもが周りの人に歌詞について教えてもらっているのを見た時、良かったと思うとともに練習方法が適切でなかったと思いました。毎回試行錯誤ですが、こどもたちと大声で歌えることを楽しみに続けていきたいと思っております。みなさんも一度来られませんか？（叶）



僕は2012年にたぶんかフリースクールの新宿校で勉強していて、今は高校3年生です。新宿校に遊びに行つたとき、先生に「土曜日に荒川校で手伝ってくれますか？」と聞かれました。僕もそこで勉強したことあるから、荒川校のことがわかります。人に教えたことがない僕は心配でしたが、先生に「手伝うだけだから、通訳や簡単な仕事くらいでいいです。初めてでうまくできなくてもいいです。」と言われて、やってみようと思つて行ってみました。初め荒川校へ行ったとき、人手が足りなくて、結果的には僕が1人を教えなければなりませんでした。最初はちょっと緊張していましたが、教えているとだんだん慣れてきて、人に

教えることは楽しく思いました。それから何回も来ていろいろな人に教えました。ときどき自分でもわからないことを聞かれてパニックになりましたが、なんどなく携帯電話で調べて教えました。土曜日にここで勉強しているたちはたぶんかフリースクールの生徒だったり、中学生だったり、いろいろな子どもたちがいます。みんなは日本に来て時間が経っていないので、いろいろな悩みがあります。例えば、中学校の授業がわからないとか、話しかけられないから友だちが作れないとか、高校はどこを選んだらいいかわからないとか…。僕もそうだったから、解決できるかできないかわかりませんが、自分の経験を教えてあげました。解決できたらうれしいです。（劉）



# いいね!



[facebook.com/tabunkatokyo](https://facebook.com/tabunkatokyo)

## 多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



**46人**

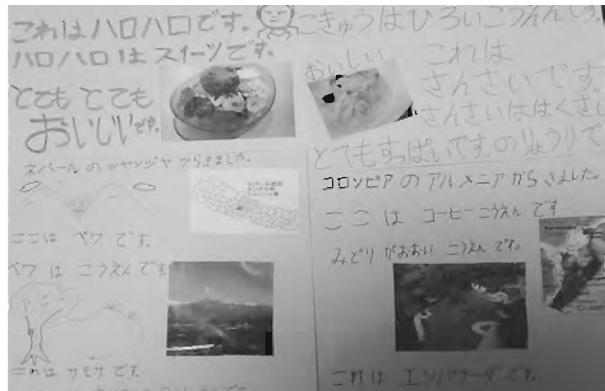
のかたが「いいね！」を押してくれました。

5月20日

4月13日から勉強をスタートした新宿校日本語2クラス。5月の連休明けにはネパール出身の女の子が4人加わり、6ヶ国11人のにぎやかなクラスとなりました。

ひらがなの読み方からスタートして1ヶ月と少し、今日は出身の国や町の名所や食べ物を紹介するポスターをつくりました。フィリピンのレチョン（豚の丸焼き）の写真を見てアメリカ出身の女の子が悲鳴をあげたり、ネパールのモモを見て中国出身の生徒が「小龍包みたい！」と大騒ぎしたり、みんなお互いの国のこと興味津々で盛りあがりました。

いつもこの授業で生徒たちの出身地のことを知り、いろいろな名物の話を聞くと、そのたびに私の「行きたいところ」と「食べたいもの」リストが長くなっています。いつかみんなの故郷をぜんぶまわってみたいなあと思っています。



**35人**

のかたが「いいね！」を押してくれました。

7月3日

朝、先生が「さあ、テストをしますよ。」というと、「ああ～、べんとくさいーい！」とある生徒。ん？「べんとうくさい」？

この時期に弁当臭いのはとっても危ない!! 何事?と思っていると・・・

「え、めんどうくさい？」気づいた生徒がくっくっく。

「べんとうくさい、べんとうくさい。」みんなのツボにはまった様子。

今週はずっと雨。じとじと、じめじめ嫌な時期。

「いつもめんどうくさい、めんどうくさいという人は めんどうさがりやですよ。」

今日出会った新しいことは「めんどうさがりや」

なかなか集中できないけれど、みんな「めんどうさがりや」にならないでね～！

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。

皆様「いいね！」をよろしくお願いします。